

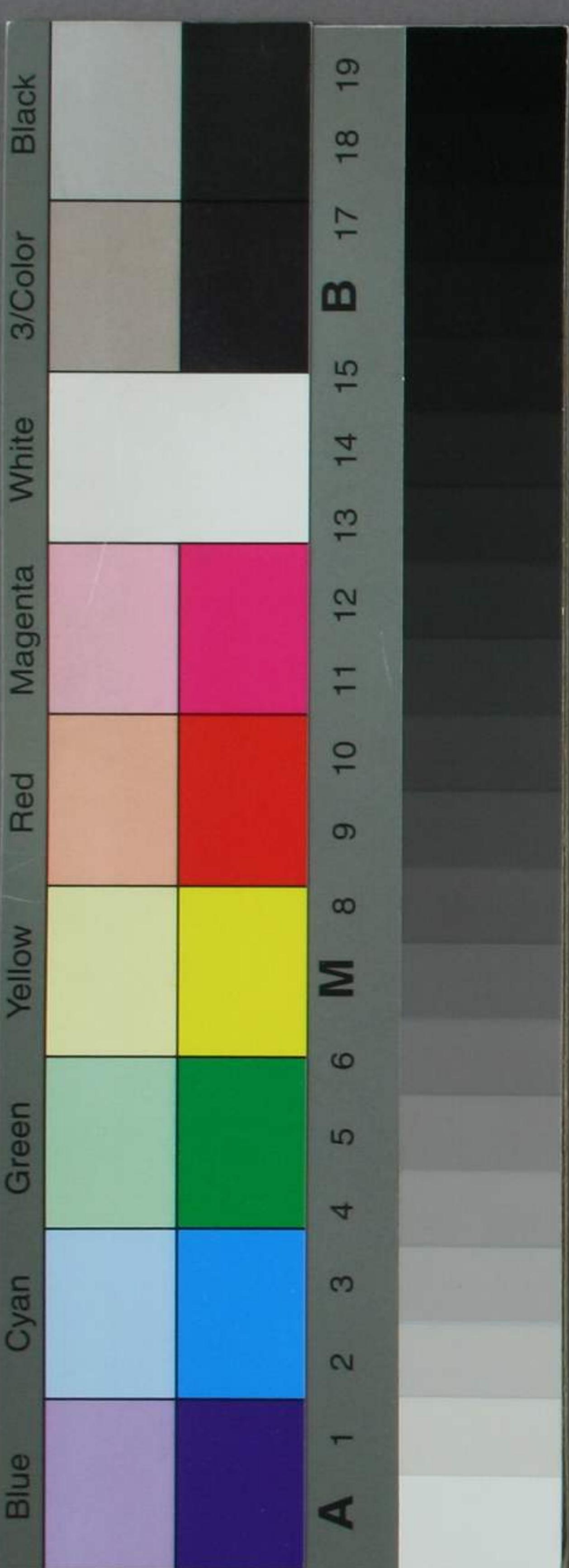
20 19 8 9

JAPAN

10

TAMIA

0



八編下　家元の角

松野勝宣院

南總里見八犬傳第八輯卷之八下套

東都　曲亭主人編次

第九回 司馬濱小船虫淫と鬻く
閻羅殿小牛鬼賊を辟刀く

詰表賊婦船虫へ去歲の夏越後にて犬川莊介義任小酒顛一们が擊き
折。獨媼内を伴ひ遠く武藏へ逃げ来る。豊嶋郡司馬濱小程近き谷山の頭
あゝ人の白屋を購求め才よ膝を含みうら。恥く媼内と夫婦よりて生活もせむ虚る。
と半年許ゆけ程ふ不義の貯祿をも竭くせん術もかく苦くに隨よ夫婦竊小商
々量じ又大思慮と計較け是よりて船虫六十字街妓と打扮て夜毎濱邊立ひ
が。客と披拂與のまゝ。その懷か東西わざと媾合の折脣とまく舌と歯断く殺
ちく戸駁と海小糞。媼内へ妓有小きと初よりてあ邊は在り。倘も小及ばざるのれ。

力を勧め拉ざと走るてあつた。恁ても人の知りけり。以あるか這四下の塩竈のことを家もあらぬ。做までよきえーかず。這同惡の虎夫狼妻が天羅の中あつた。罪も報ひあら波小漕ゆく漁の船を。今宵も這里未張る網の獲物が。と夕間膚脚高嶺子の蘆垣中夜風を防ぐ浦寒。塩木竊みて焼明毛火光と花の夕化粧曇る。八月の假眉。彦甲夜闇の黒木綿三十振袖四十嶋田五十の錢も。取ら立見居く見掛く見る。久の癪へ潰て。口開遲底疼く。毎もう三地へ出る。浮き鳥の宵遊びの往還の欲得と俟う。然ば這司馬濱へと鄙久す漁村。道奥准後の迴國雜記。古の書と宗祇のやうなうる漂鹽の煙り名ぞ。船小舟積むを。の浦人と咏まし。當時の光景想像るべ。寔よ無下の村落あれ。這浦人の生活小只塩と燒くのをわざ。釣漁も便り。世のサ芝鮫芝雜魚と。今も有れ。名物と。このうち。き。這浦續きと。品革馬驥。洪谷の莊へ當日鎌倉路次す。麻布五十子。大澤の

莊赤坂。皆這津よ遠うね。諸國の海船折々歇りて。販易を。做す。有懲舊名。ひく。ともよ。ちゆう。ゑ。けまど日暮まで。支喚ふ衝の声を。波濤うち外よ寄るの。みかづ。小船虫が賤妓。あう。這濱あや。好色を。彼此の壯佼们。が。せ。知り。世の珍。年少。規。と。あう。接金れく。果敢て錢を。奪ひ。もの。或ひ又越て旅や人の。被留。見て初駆き。果ひ亦他。圓套よ乗せ。見。夜發よ似けも。その。色小愛香。惑ひ。腰が纏ひ。盤費。兵。命と喪する。あり。と。迴國雜記。不。あ。淺草野路の孤屋の石の枕の虚情の人と殺り。昔の。戀。と。世の。後。よ。恋。と。情由。ま。知り。人中の。大蟲。女中の。毒蛇。世。あ。ヨ。か。怨。の。あ。と。怕。主。の。あ。り。け。り。あ。と。是。後。の。事。を。語。次。小寫。も。時。文明十五年正月二十日の。のか。よ。船。虫。け。も。亦。點。燭。時。候。よ。宿。所。を。出。く。濱邊。小。辛く。客。を。俟。る。左。右。丈。九。尺。う。茅。不。葺。の。佛。堂。二。座。並。び。く。建。り。け。る。左。夷。地。藏。井。右。夷。あ。ん。ま。り。ご。闇魔の木像。あ。と。至。徳。の。年。間。後。小。松。院。御。宇。お。わ。り。ん。見。壇。光明寺の聖聰上人。這。壁。

八大傳八車卷八下

卷之三

過りぬ。折。網引釣漁。浦人們。輪回忘報の理りを。叮寧小説諭。とさへ冥福と
薦め。浦人們。月毎。錢を集め年と歷く。竟乎一座の佛堂を。濱邊に建立志
も。地藏と閻魔。一佛二體。慈愛肅殺異をども。俱よ能化の教主。世の罪障
も。身を墮す。先と墮獄の苦もあ。閻魔の廳よ呵責を受く。永劫浮む瀕ゆき。又
舊惡あるもの。先非と怕と懺悔と。心と慈善と轉せば。一旦地獄ふ墮ると。地藏
が現。先と。つて。えざる。けらく。心と惡事と。も。小惡も稍蘊。大惡と
共。免る路。些小えども。善事と。も。息り。小善の良積と。大善と。も。果報
あり。然べ地獄の大堂も。閻魔も。地藏も。ものも。皆その心の致を所と。他ふ求むべく。
も。その心求ま。佛とも。あり。餓鬼とも。多く。世人釣漁と做も。宮古河を濱に有。兄
ち。を。みどらう。ひど。まとう。ふ。みやとく。まきも。か。あせり。つみせり。あら。近く。淀より弥陀一郎。あら。佛意。悟り。ひど。えく。わき。あ。あ。を。このぎ。も。自足。暇。口。佛名。唱。易。が。這。義。忘。と。與。上。人の。説。薦。も。建。

まきを拂ひト佛堂あれ。誰々陳歎か多び死然ると船虫と媼内の一毫の忌憚をも地方も
やんと両佛堂の間玉立在ミ客を引く邪淫汚穢ものをも人を害して財を奪ふ
罪惡越ふ極も。其も戰世の癖も法度邊鄙より居むて。神も怒り佛も憂ふ
悪敷那身は及ばず。天道も亦賞罰ふ私ありとぞまの間詰休題折々彼此の社
校の廿日正月あればとく漁戸農家いづきく坊賈ふ使を。年期未満の小廝も遊ぶを
旨とする日もよ然でも調戯を嫖蕩子の那十字街妓を挑ふと來り。狎つて木兎酒の
木兎を引る物狂く。前顧純頬罩を。前後を爭ふ鎗頭尖く突く入る客。うち客
連放蒐る鐵炮の矢すひ飛ぐ天外よ登綱て復の夜を果敢き契る草の床草の
まきを拂ひ。そでうつう。生。や。まきを拂ひ。まきを拂ひ。まきを拂ひ。まきを拂ひ。
枕よ草筵片布く袖ふ程香。牛の糞をと人へて心うち。憎うぬ敵ひ。麝蔚香の臍
樞錢と二百郤舎く別を。這全盛も甲夜過く人迹稀よ。比連立来ねる近
えん。うとうゆせう。じんまひよまち。つこちまえひだまげ。村の耆長農圃保甲。齡四十といそ傳ひ。籠張燈を引提くうち譚ひ。近づくを。

船虫やと喚みく。喃々刀祢達よとを。寄せと招けど。些の阿容ぞ立寄く。是が
 那評判高き女也。其と共侶よ。張燈抗く。船虫の眞容半面ほくと覗る。約莫
 半晌許感ふ。勝ざる面色も。錫右衛門主妙をも。乃者世間の評判を耳不聴けれど
 又さへ初々。往還の人の情慾を商ふ。十字街妓が現罕をば。花の顔月の眉可惜縲
 致をり。愁非類す。世渡りの仕事。人の果をも。とくに領く。錫右衛門。又かう
 無く嗟嘆す。帳八翁の宣ふ。浮世の果ハ小町也。大雨の潤ハ金魚也。塵塚も
 生む。美人草をも。近屬亥の尊を父鬼。浪速津の片頭よ。夜々岩十字街妓の
 中の一個の美婦人わ。そへ何處ろまん火計のものも知ねど。苛栗の中も真
 実玉ぞと。嫖客達聚ひ来る。その美人をも挑み。約十夜許ふも。竟ふて来む
 事ある。迹小遣せ。歌あり。物の端不寫着。をも。知らぬ立寄る。む
 世小露のうを。草のむろ不濡。と云夜を。とあけ未入皆坐不憐る。

甚麼も人の身をあらし。態形よれ所行を素けん。らく惜がゆのとく。語彌ぎ
 倍もゆき。話柄小做せり。とぞ。邊莫世の傳る奇談。好事家流の作設。人を咲モ
 も。多き六寓事。人を咲。方偉這妓也。第も知ぬ。那浪速津の美婦人。二十四
 孔か一孔を換く。情慾を賣り。すも。這傳手をやく。孰めとも掘出東西。嗚呼廉
 きが。廉えり。とぞ。船虫推禁め。よ喃々刀祢達空口利く。廊前をか塞げ。も。そ
 蟹戸が塩焼く。幸也。方金の東西も時價を外。短縮錢も。も入を。ば候まぐ
 客ハ馴れ。然もうち力もあらず。アレで風味を知る。わん徒空賞。少袋ぞと。
 安きのぞ。と。代よ。迭代よ。誘。尚用口。仰るが。じゆ。軀。帳ハの袖を拭て引寄
 ませ。俱か駁く。錫右衛門。細筆が係り。友鳥を。資。雲時。抑擇。表。饒。も。と
 雨声。身を脱。と。前。引く。鎧頭巾も片髪。す。脛。袖と拵。放。郤舍。張燈揮
 け。點。還る。素見客。卒罷。子泣く。その子の母も俟。急ぎ。先

立つ地藏の王小錫右馬門間魔の笏と帳八重。墮ね地獄小怖氣流く煩惱醒て菩
提心南無阿弥陀佛と念佛。御堂遙か拜て。真如の月今が如來。夜簡きら來
熟す路を索めしをぞ。船虫本意。小要時其方と目送り。噫樹の夕き
翁们。年ゆる羞せ空口嗜き。四訓へ観面灯を喪ひ。闇路を辿る鉢。是
かく来ゆ。実成る客。且焼着く俟候。と獨言。彼此と鹽木拾ひ燃残る火を吹
起も浦風。寒きを凌ぐ程も。野寺の鐘の音响く。夜も一更もす。登時
船虫を。今宵も既に深切。阿定り。金錢の手合と。搔き采免薄情さ。然るべ
野良夫が今おも何首を。暮る夜を上む。世渡りと。知り。這里へ寄着ね。外は増花
わらゆの。然然と。路の障り。よまく。留やまう。然ふ。心ひと。俟不樂。や。と。と。
苦。胸。火。燒く。鹽木の薄煙立。秋。方。す。滅く。空吹。風。雲。霧。二十日の月。ハ
出あり。浩。處。小。高。懸。ハ。下。あ。乗。一。個。の。旅。客。宿。投。後。まく。い。空。や。まく。肩。二。箇。の

行裏を前と後うち。机で走り過ぐ。每程よ船虫を立迎へ。や。嘯。要時寄り。象
ね。喰り。裏包を披留。旅客。駭。う。か。と。理。不。盡。何。び。ぞ。夜。北。の。濱。邊。茶
憚り。殊。女子の單身。て。旅客を。夕。を。留。宿。引。き。然。然。あ。う。ど。夕。を。船虫
うち。笑ひ。疎。幽。を。宣。か。と。恥。り。仰。み。奴。家。が。良。人。ハ。武。家。の。退。糧。人。這。近
御。よ。僑。居。く。婉。ふ。立。朝。夕。の。烟。も。細。る。身。の。病。着。ふ。臥。と。一。稔。あ。ま。り。竟。よ。世。を。去。り。
往。き。先。迹。よ。残。る。老。る。姑。二。稔。以。來。壁。足。疾。也。目。も。亦。足。を。あ。う。と。が。藥。の。價。手。術。を。裏。
親。ふ。隠。て。宵。々。毎。小。這。鹽。濱。ふ。立。出。く。情。慾。を。賣。る。親。の。與。憐。愍。愁。を。よ。嘯。と。詔。説。く。を
う。か。啼。旅客。隈。か。月。光。よ。す。寛。い。寛。い。未。曾。有。の
夜。の。花。然。も。些。小。の。價。毛。身。を。儘。せ。れ。と。う。と。嘗。古。亂。せ。ま。る。宝。の。山。入。る。空。ふ。選。ふ。似
方。と。尋。思。を。考。え。ん。荒。元。介。と。笑。く。原。來。稀。う。孝。行。實。義。剛。才。の。情。由。を。賣。く。買。て
よ。か。情。も。慈。悲。も。知。る。東。狄。と。よ。名。せ。ん。假。寢。の。臥。算。ハ。何。处。を。と。問。う。船。虫。笑。い。げ。某

恥。鹽竈の蔭下延々布麻の枕。這方へ來よとを食ひ。物の蔭下を伴ひ。且々旅客へ慌て声響く立。這街妻奴が大胆。俺。舌を手に退毛。噬断を。舌あんむん。又舌尖を傷らし。血三流。疼痛不堪。近曾這濱小野賤妓。よる所行を考く客を害するのあり。もはや各竊不虚実を試え。とあるふ。よりそ今宵俺旅客。お拾く。引まく。俱お用ひ。世の風聞よ果て錯。を綻ぶ。身枕の價廉か娼妓似け。管待態の大きさ。舌を吸せ。吸上せ。噬殺され。ぞ知りぬ。世の。よ。が。す。が。い。覺期をせよ。五十子殿へ。扇谷定。正を以。牽り。とある。許ヨタの賞錢と賜。動揚。お腕を遠せ。と罵り。推伏せ。隠持。捕索。繩。既。舌。細。船虫。怯。声秀。絞り。名。死。の。疑。漫。之。の。を。る。奴家。の。を。る。惡吏。を。釀。も。の。く。作。ら。や。家。の。佳。境。か。入。り。よ。も。の。舌。の。糸。斷。齒。の。障。う。れ。え。ま。を。整。我。と。宵。每。小。奴。家。

全盛を土妓小娼。も。濡衣。と。被せられ。惄り。後悔。未。と。心。瞞。又。復。て。携る。を。突。退。搔。潜。る。女。人。は。稀。る。巻。の。搔。一。搔。逃。走。る。を。善。惡。平。は。危。脱。き。ど。も。暮。地。は。趕。程。か。後。响。鐵。炮。の。笛。音。と。共。侶。憐。む。善。惡。平。は。背。を。胸。を。擊。融。ひ。苦。と。声。叫。び。も。わ。身。と。轉。く。仆。ま。る。身。の。内。を。空。の。舟。船。中。殊。す。胆。を。潰。く。立。ち。忙。然。と。立。在。し。程。も。あ。い。種。子。嶋。の。小。鳥。銃。を。引。提。く。を。あ。も。這。里。來。る。の。あ。り。是。則。別。人。か。も。又。那。惡。僕。媼。内。で。最。大。だ。有。る。辟。猶。牛。を。逐。既。近。つ。と。船。虫。月。光。不。ム。ぞ。と。認。や。不。勝。の。歎。び。再。生。る。心。地。て。立。戻。り。うち。通。く。好。折。く。お。媼。内。主。危。き。を。仰。り。卑。そ。故。ハ。箇。様。々。と。那。善。惡。平。が。塙。の。趣。一。五。十。と。教。知。して。他。ハ。五。十。子。か。ぎ。放。免。の。善。惡。平。と。す。の。ぞ。と。よ。這。方。の。機。密。と。艶。着。く。旅。客。お。教。り。と。本。ふ。け。と。然。づ。り。の。よ。う。知。る。よ。う。も。も。愁。ふ。も。と。半。く。鈍。や。本。直。ふ。多。い。と。結。果。ひ。ま。の。没。怪。の。幸。ひ。後。產。惱。ね。似。れ。ど。翌。より。這。里。更。立。か。う。

まことに。よひやらう。こよきうち。よそ
が身又何等の故か甲夜より這頭寄も来ず。世渡種を外ゆ。俺身は空骨折
る。心長閑を薄情さよと囁語を。く害ふを媼内听て微笑を。叱りを。今宵俺
遅く來ぬも亦所以あり。這月好鳥も傷む。才五百六百の傍鏡を。挣きて。酒も
名の隨處喫を。ひきを野鷄でも數り。捉え。酒菜。あせぶや。と尋思。よし。けふ半より。這
鐵炮と引提と廣緒と求獵。がども折々多く。獲り。あらざ。空日消して腹立つ。さふ
がき。酒肆よ立寄り。腰よ着ふ。錢と限り。飲も啖ひ。程か。夜。初更。ふきり。
よし。懲り。酒肆を立ひ。冠の松の頭を。來あせ。路の傍。農夫の家。古事。男女
きの。よし。うき。き。迷ふ。罵る声の。いと。貴様。く笑ふ。が心と。おき。立寄る。背門の。よし。闕窺。夫婦。聞諍の
最中。ひて。打ち。打ま。泣。叫び。四鄰。と動。宅の。打擇。其頭の。爹。奶奶。聚ひ。来て。
うら。よし。まむ。つま。と。と。あひ。打と。柱。和解。妻も。夫も。醉。うけん。禁。の。さへ。敵。ふか。寡。云云。と。罵り。狂
ふ。争ひ。果。うけん。余程。俺。か。今。這諱劇の。折。紛。何。も。き。か。まれ。の

せを。けの不羈を補ひがく。好東西を欲得と看廻らまふ。背門の内まき牛欄ふ。這赤牛
一頭あり。全身肥脂澤く。逞てとひふやもあらむ。と称す大牛をまが。向でも多見逸物之潛
と牽出も賣轉ま。圓金十枚の得易か。然とて躊躇。這牛を竊み。背門より出で
與之。一家児童。奴们罵る声。ふがごとく。足响ど。も。づつ。皆執。通上せ。折あき。ば。
後々。まとも知らず。ありけん。甲夜周。路程え。憚りも。逐走りし。這里を。かか
來み。折。亥中の月の影。便り。遙か夕暮れ。窮屈難情。由アを知ら。入。あ。て。趕
遍り。わざ。事急。原來。毛綿。行損。の。懲。難義。不及。び。けん。と。あ。精。此。も
猶豫。せ。牛の追跡の用心。火索。附。る。鐵炮。の。竊錯。を。敵。留。う。這
火砲。去歲の夏。北越。在。折。夜。敵。の留守の準備。と。童子。箒。子の
遞與。せ。久。藏。措。今宵の。信。役。立。又。那善惡平。の。奴。五十子
頭の放免。が。素。好人。勇。を。敵。殺。と。戸。殿。聚。後安忍。似。れ。ど。

他のまゝで這方の機密を覗着する人ありやせん然び翌より生活を更て这里
六歩ゆき。左を右を俺の通宵這牛と遠く千住へ牽りとて。售も翌
快なり。其の那戸駄を海不流して後ふそと。多ど倘牛主が趕蒐來る。亦
復縛の難義ふ及ん。要時うともあの牛と推懐をそよぎ四下あおろを屬
もや。詞せらり其次さや不生と船虫听く笑しげ。寔ふあき好牛え什麼何處隠
き。と向ひ俱か彼此と省り顧る磯邊わ塙焼りの豪屋あり。夜へ鎖くさりし成る人
身。是究竟と媼内立て鎖を操用け。船虫も身傍そば牛と豪屋不牽
入しけり。浩處小六尺棒を引提く這方へ来る者あり。媼内遙とほく。他ち必
牛の主が趕蒐來る。牛を牽ひて遣過し。那戸駄を流さん。人
牙そご其頭小ると。氣色悟らどある。とあらぬ。闇魔堂の背せきをく躲き
け。程もゆせ。一個の農戸年歲四十許よ。面の色赤黒く。熟せる東

童ね。如く身材は最高く。港みな建る檣似よ。昔當麻の強力士。跋速はくそくともいひ
の。死面魂の逞うなづき。怒り不堪まか。圓まつ。眼光まなこ凄ひど。右を省そなへ。左を頷うなづ。来
り船虫不声を被かぶ。嘔よ。寅と。問たず。濱立人和女郎。世上の尊そん。十字街妓よしを
あほす。方かた。僅赤牛を逐走よし。这里と過り。のあゞ。何地どこを認に。と問
ひ。船虫頭を掉うなづ。否然まことに人ひとを去く。去向の路の違たが。左を快々外を索さ。と
い。も去く。持もつ棒を杖不衝じよ立沈吟くいん。とあらぬ。咱們わたくし麻生の惡あくを覗く。
冠松の頭かぶつ。農戸鬼四郎と云い。俺が面おもてのと赤け。村人们が渾名まこと搭く。赤
鬼四郎と喚よ。家いえ年来養く。駢くじら牛一頭とう。ある。地方ふ稀まれ。逸
物もの。村人们が亦件の牛。小こ備名そなへ搭く。赤鬼四郎と喚よ。物もの。
地方ところ人ひと。則そなへ俺事こと。又牛鬼ごと知し。俺牛ごと知し。恁なる名物
き。と耕う。いふ。車くるま。荷は。駆く。尋常尋常。牛二三頭とうの。擇え。

倍々俺與よひと大さきざまが憑たる限りのあらモ。けふ二十日正月ゆく。人も
俺も家々皆遊ぶを盲目と考ふよ。牛やも骨を休して咱們夫婦へ日の暮をまぎ。
酒うち喫へる樂盡く。不圖せ一口説のりとより。歐ハ四馬を迭の醉狂多モ。四鄰を騒
きる緋の紛毛。盜児が背門より牛を牽けん。緋鎮と俺牛鬼。やモアリと
稍知りそ。さてアト趕蒐來り。莫ニ。勿論。這里まで路まで。人多向試ふ。クレ甲夜
眉う。比喩。身炬も點さず。牛と牽く。一個の男の恍げ。司馬濱のこゝをねむ。見
きとあらのヨリかげ。小甲夜より。這里ふす。和女郎の刀をとひえ。胡論と詰る。船虫
冷笑ひ。そ宣もとさう。猫歎鼠でわき。目ふ揖ざるとありえん。最大きう牛の
牽まき。這頭へ来まん。詎う目外。侍ゑ死。司馬とうい。廣か。這里あと濱で
まん。上中下と幾町。長き浦曲を彼此と。ふとも涉獵。らでちまきの牛の必。這里へ
來る。夢で見とせゆ。奴家の牛の張番人ふ。央き。ひきだりのと鈍キ。さ

よと口ゑく。窘らむる鬼四郎の腹も立まらず舌も鳴らして。恁いふほど。術あり。又外を涉瀬ゑべ。並みかぢと咳き。帰まると母一程ふ。那牛鬼は這年來听も熟き。主人の声を知りけん。豪農屋の内よりしき。忽地高く吽と鳴く。声に駭く。鬼四郎。其方を危と見かど。俱小敬馬く船虫へ折下かり。と氣を胸に。重く胸を鎮め。も。豪農屋の牛鬼ハ。兩三度鳴く。声の疑ふざりあう。さとび歎び勇む。鬼四郎。他も正ぐ。俺牛之那首小隠て措き。悍々ちくも欺き。這銜妻奴も。飼賊す。先牛鬼を半來。虚實を舛え。覓期をせよ。敦園猛く豪農屋の戸口へ寄る。船虫推禁。漫うと考み。他は這頭の浦人。が塩木を駄牛と。夜那菰屋。ふ。繫縄さくわ。司馬牛のヨヌかる。おもむる牛のミ鳴く。のう。といせもあく。鬼四郎。怒まる。声を立て。這賊婦奴。大胆。這期ふ。及ひて。云々。と爲る。とて。も詎ふ。听ん妨げ。も。と暴す。携ると振断突倒。再找む豪農屋の板戸を推

用合とせし程の後か响く鐵炮が轟きまく仰天る鬼四郎血煙立ち死んで。既に
あく壇内へ闇魔堂の頭あら縛り破れと見知りて脱きかゝるを又鬼四郎と
轟き仆かる鐵炮引提く姿であら。稍身を起せし船虫が脣の沙をうち拂ひそ。
却も今宵は折の夕さよな身へ那放免の謀らどるを悟らせし行損かく趕綱
らを。咱們のせし赤牛の鳴る故に織發賞までとう復するが勢ひナ一か這
鐵炮の微りせし何をり一度の祟と爲上地の禳念。今宵の拵ひは是を争ふ
兩個の戸殿を海へ流し牛を半住牽りとんが身を宿所へ還りながらといふ船虫
領き。那畜生が鳴むわが甘く咲くいきえと身のを声立て已が所在を知
せし故ふ鬼四と争ふ轟りき方。鳴む雄子も轟きを容下。求獵えが争ふ春の野も。
此の濱邊も妻恋ふ浮きく係る好鳥の今もあらん。然料りなどり。ちゞ夜深ぢ
身のと先の戸殿を棄めしと笑ふ潛き相譚み折る遙かの小張燈高懸の

かすりまく浦邊を這方へ來るのあり。召のぞ明かり。月を使ひふとよる腰小
刀を佩く。旅の武夫をひそん頭巾目冒小細小。行裏と駕搭す。登時船
虫が遠く壇内が袂を引く。又他へ好鳥をひそん袂快立迎え素引く刃戸殿を
隠す。身をとひ壇内あらぬ。四下かわゆる破壁占と身を食す鬼四郎と善惡の
亡骸。小一二枚うち被る。又鐵炮を引提く。もの身へ再闇魔堂の檐下小退き伏躲
き。縛の容を覗ひける。余程の件の武夫連ひそむ。夜の濱邊を立つ人あるを知
りも。走り過ぐ。程の船虫を立迎え。やよ喃々時寄くせり。とひら袖を援
留し。武士驚き刃かく。怪や休へ甚麼事のぞ。と向へ船虫うち微笑。恥
ゑの親の與ふ情を商ふ娼妓がう。とす声耳も覚ゆむ。武士引提く小張燈を
抵抗の倍と看く。あら汝の船虫歟。小文吾を知らず。名牛も果だ存ひをす。
搔き。頭巾小堂を。相貌威風今まふ紛れもあらず。船虫が吐嗟。う。

駭怕走て逃亡せ。小文吾透子を張燈を搔遣捨て猿臂月と伸く。項上扒ミ
引寄せ。小脇ふ縫く動せ。怒ふ堪れ。声高め。船虫汝へ越路。俺と刺んと
走り。そのあ竟成ら。庚申堂が囚と。更ふ犬川サ社人。欺き資をみて。
宿所不送りと還り。その夜艾酒顛二門。サ社人。敷き資をみて。
と狹い支黨と俱の逃亡。生拘の小嘩囉。洞六穴八が招道。あ明日
知る。往方分明。遣憾く名の。這里で遭ひ。天の冥罰。揃れば。も。
今番脱。觀念せ。罵謔。天父の縁を解出し。兩手背へ操。枉げ。も。細
ん毎程。小間魔堂の檐下。躲ま。媧内へ這爲体。うち駭け。ど此。も。駭。件の武
士名告。柔。小文吾。を。知り。粗。轍。潜歩。考。下壇。登り。尻立ち。樹。持
る鐵炮。直。と。今。西鐵丸程。至。よ。と。被。本。方。ける。懸。折。止。堂内。小。用
箋。り。一個の武士。朱鞚の西刀。苛。目。宵。戴。編。笠。も。脱。前。よ。廟。窺。

すけ。今。媧内。が。鐵炮。火蓋。を。反。と。毎。處。裏面。う。籠子。戸。蹴。開。頤。出。侍
媧内。を。搔。扒。仰。反。と。鐵炮。奪。と。投。棄。大。駭。叫。媧内。驚。不。捉。と。猿。よ
脆。摔。札。と。宙。吊。楊。碟。弄。投。う。と。十。間。わ。き。前。面。地。藏。堂。裏。投。着。ら
且。下。壇。お。控。と。倒。立。る。鄉。音。さ。不。外。籠子。戸。の。内。も。亦。一。個。の。武。士。あり。本。尊。の。御。前。お
立。う。け。形。貌。自。然。と。頭。ま。く。此。彼。俱。小。一。對。笠。深。く。せ。微。行。の。折。扮。起。企。走。る。媧内。小
走。り。掛。り。蹴。返。と。背。踏。動。せ。喧。く。と。呵。々。と。う。ち。笑。ひ。と。絶。え。久。を。惡。僕。媧内。俺。へ
相。識。大。塚。信。乃。と。睛。定。や。と。金。と。告。笠。と。脱。捨。と。大。山。道。節。忠。與。登。時。大。田。小
昏。時。と。這。堂。内。お。在。り。け。ど。報。又。亦。是。別。人。す。モ。大。山。道。節。忠。與。登。時。大。田。小
文。吾。志。船。虫。を。細。め。左。右。見。か。ず。不。勝。の。歎。び。名。を。完。全。と。う。ち。笑。ひ。と。絶。え。久。を。惡。僕。媧内。俺。へ
主。大。塚。主。も。何。等。の。故。通。夜。籠。り。あ。き。あ。せ。と。辯。向。不。信。乃。も。亦。准。備。の。索。り。と



あらぐ
急々のるわりけりと。船虫ハ十字街妓ふきや客と誘ひ殺す金を奪ひ。今宵ハ
放免善惡平とうづかのよ。その段を見頭さまで縛の難義よ及び折。壇内も竊
う。牛と牽ひかて来て鐵炮をと善惡平と轟す殺すようと。詞せきく説示ひ又壇内を
指すと。遠強盜麻生。冠松の頭を鬼四郎と農戸の駢牛を竊略。牽ひ
這里來り折那鬼四郎が趕蒐来ゆ。船虫が欺きいきえをせ程か豪居屋の内に隠
る。牛がその主の声を知りけ忽地か鳴らぐ。その辯も亦發覚。復きと考へ
姫内に這窟魔堂の頭か躲く。又鐵炮を鬼四郎を轟ひ付へ。甘木们堂内にてその
爲体を覗窺。また怒よ堪。走りゆく。捕人を多ひ折犬田生の來ゆふ。更のあひ及
び。と報ひ小文吾歯を切り。と遠船虫ハ云ひまを強盜の妻か做り。悪を資けのをあらむ。
某を害せると考へ。一度よ及び。類稀象賊婦みをと敦園猛く罵。其現入も亦參り。と捺
某。これよりうちどつま。赤岩を妖怪の後妻か。と大村生夫婦を寛げ
と。遠奴ハ云ひ。強盜賊の妻か。赤岩を妖怪の後妻か。と大村生夫婦を寛げ

剝。逼りて貞女を害す。とひが其外も眼と瞬りて去年の咱们を欺き。庚申堂より隠
宅へ送りて方け。報ひあ。酒顛二三の餘小賊まご。齶ふをれども。這奴が奉逃亡とも
本意あり。又天罰時節到来と。捕獲らるて愉快ゆゑも寢ふ珍重多と齊一
勇ひを申み大角うちうるを。獨嘆息を方け。氣色ふ猜も。船虫や大角ふも對
ひく。大村王の年來奴家づきも罪過の後悔及びて。母との生子と唱へる。
好を忘と。命乞奉ひぬか。どうせのむ大角ハ眼と瞪り一聲ゆり立て。噴毒
婦奴が何をや。俺舊里あ存り。時親の仇。妖怪小魅。まほびいあ。汝と继母の
ごとふを。死妖怪竟ふ露。とく。親の死心を復々折。汝も許を乞ひのうねど。その比縁連を
大阪生の仇と知り。汝が阿佐合あて。大田生を害せ。と謀り。もと知り。が那嫁連
諸の盡。とあを頗り遣へ。おを悔く。あを。這身あ干る。あを。今俺嘆息
あを。おを。おを。おを。おを。おを。おを。おを。おを。おを。おを。おを。おを。おを。

毒惡類言かぬ。と怕ひありの所以。すがに憐む。も猜せ。欵無慙の辯者。と責
め。信乃は推林禁や。この。が。き。うん。え。か。あ。を。あ。わ。あ。く。ら。す。
て。瘡を負へ盤纏を奪ひ。逃亡する舊恩の。懲り。その罪船虫と勝劣の。争ひ。推並
べ。八割が斬切る。惡を懲る。今す。猶豫す。と。道節頗る。を。勿論の。事。
畜生が。ち。劣り。這奴們を。吾子の。み。其。可惜。刃を汚る。牛刀を。鷄を割く。如く
多。牛。う。六。娘内が。竊み。牛の。那首。わ。他。與。も。這奴們。亦是。吾の仇。が。牛。か。突
き。もの。隨。苦。や。誅戮せん。箇様々。不。要。と。諭。せ。小文吾。現。八。莊。介。多。下。と。應
ふ。刀。附。小。刀。子。と。船虫と。娘内が。衣の。背條。破。失。信。乃。も。亦。身。傷。き。小。文。吾。と
共。侶。不。墨。手。の。筆。と。這。賊。夫。婦。の。背。罪。の。箇。條。上。そ。約。半。寫。着。間。魔。堂。の
前。左。右。二。株。の。杉。推。並。族。毛。纏。不。要。う。け。登。時。道。筋。大。角。誘。引。裏。屋。隠。
置。ま。る。牛。と。這。方。之。奉。と。け。リ。介。程。船虫。充。ま。る。免。罪。過。を。と。小。文。吾。大。角。们。

怨。三。て。罵。り。在。の。公。既。而。死。刑。不。益。三。年。多。少。哀。果。只。娘。内。を。不。交。み。又。娘。内。ハ
道。節。不。太。く。抜。き。時。胸。を。摸。セ。骨。折。聲。立。一。言。半。句。も。の。い。面。色。あ。ざ。不
免。才。小。息。を。吻。こ。ぎ。道。節。こ。ま。と。左。見。右。見。五。大。の。弟。兄。弟。兄。と。這。船。虫。娘。内。ハ。尋。常。
罪。人。う。ま。そ。惡。古。今。稀。多。身。生。多。地。獄。不。墮。今。這。閻。王。殿。前。牛。の。角。不
辟。方。前。面。不。地。藏。わ。と。と。根。赤。大。辟。の。諫。斷。愁。す。わ。と。信。乃。ハ。牛
身。邊。付。找。寄。ほ。く。足。櫛。筒。よ。追。牛。の。主。と。使。す。鬼。四。郎。が。云。云。と。ひ。誇。り。一。牛。初
知。う。あ。と。ヨ。ヌ。ぬ。逸。物。主。村。人。们。が。勇。名。搭。七。牛。を。牛。鬼。と。喚。做。け。も。名。詮。自。性。
牛。頭。馬。頭。冥。府。の。獄。卒。手。擬。毛。う。け。自然。妙。契。畜。生。と。あ。う。ゆ。が。這。義。を。も。と。主。の
仇。急。賊。夫。賊。婦。と。劈。け。か。心。を。ひ。よ。と。叮。寧。お。諭。せ。小。丈。吾。現。八。牛。の。後。不。立。り。も。と
之。尻。を。破。と。指。つ。拍。と。勇。む。牛。鬼。の。も。の。を。娘。内。と。船。虫。を。と。睨。る。程。も。あ。ま。那。も
這。を。長。尖。ま。る。角。と。腋。下。よ。肩。牛。本。を。串。劈。く。怒。牛。の。勢。ひ。地。獄。の。呵。責。を。目前。不

受く苦む船虫姫内。眼血走る顔の色赤く。又著く多て。腹ふ波う大叫喚串を正
數番か。やう處不思範へ。有繫は勇む六太も。這光景よ肅然と。おもむ目を合へ。

第九十一回 真鈴森毛野縁連を擊ら

谷山小道節定正を射る

登時小文吾。信乃道節们から對ひ。某小千谷旅宿をある。去歲の四月八千村を。關牛の折。暴牛ゆ。夜小角力磯九郎。船虫酒顛二不殺さ。今宵亦這赤牛が。船虫姫内を劈き。王の心を復讐せり。那磯九郎の與ゆ。恥を雪ゆるひ。似す。天綱陳漏漏。惡報か。そあみけ。道節。黙頭。其頭の餘談もまかん。事緊要を密談す。約束する。快船の今來。比量。牛と樹下小轡留め。一圓。這里を退く。答る詞も。訖。折。波濤を推断る。快船一艘。這鹽濱を漕着。暗號の哨子を吹鳴せ。道節信。及あらぬ。走り水際を赴く。程の袖前を找む。壯俊あり。是則。別人乎。落鮎餘之七。

有種。道節信乃。ふうち對ひ。嚮ふ示させひ。如く。某穗北。走か。豫一味の衆人。小
よせ告相促。速く準備。整は。這義を知。ま。是と。多よそ。某。快船を乗走。て。
目今着到。又衆人五六艘の大平駄を。熟乗。推續。來。該。と。不。道節。秋びて。
そ。速き。隊配。某の大塚と。俱。黄昏より。這里。專。來船を。候程。料。小文吾。
莊人。現。大角の四大士。甲斐の石永。よ。來。遣。有。恁。便。那人。余。對。画。
志。更。進退。議。ば。信。乃。も。有。種。王僕と。嵩高師们を。勞。ひ。け。今程。ササゲ
げ。あ。こ。だん。ご。ざ。ぐ。く。り。あ。と。つ。を。よ。や。つ。ま。ち。連。上。そ。来。ゆ。け。信。乃。道。節。へ。這。四。大。士。お
現。八。小。文。吾。大。角。牛。樹。下。轡。留。連。上。そ。来。ゆ。け。信。乃。道。節。へ。這。四。大。士。お
有。種。來。ゆ。恁。と。対。知。し。齊。一。船。から。乗。り。高。曇。の。々。漕。せ。け。登。時。莊。人
小。文。吾。現。八。大。角。と。共。侶。有。種。の。初。對。面。と。大。法。師。の。迹。を。慕。き。甲。斐。よ。う。這。里
志。來。ゆ。折。道。節。信。乃。の。資。を得。強。盜。船。虫。姫。内。を。誅。戮。を。方。趣。と。箇。様。々。を。敷
知。れ。有。種。耳。と。傾。け。手。羽。よ。り。を。壽。時。き。け。且。く。道。節。へ。小。文。吾。と。自。餘。三。大。士。お

今番縁連と共に、相模へ赴く副使雲、龜門鍋々既濟、越松駿三一峯、鷦鷯崎忠四郎猛虎、并ふ大石憲重の家臣仁田山正五正使縁連と俱ふ五名皆是武藝ありもの。就中猛虎、三十人の膂力あり。武藝尋常無ねども心術奸佞、遂に縁連が腹心と懸念するのであつた。鷦鷯河鯉權佐守如う大阪毛野ふ説示せしを竊聞て具ふ知り。有慙ハ犬田、大川、犬飼、犬村の四君子、三十名の精兵を従へて便宜の處ふ伏賀と誓、大阪縁連ふ。轍を掘ると矢をうぶ隊兵を魚鱗ふ備へて後と断前と遮り、鰐崎、龜門、越松們を撃捕らる。那縁連は忽地羽翼を失ふ。首と大阪は授くべ。這義行生と甚く其莊合を失ひ。沈吟して犬山生の軍略、寔はその圖ふ當るといへども、胤智も亦覺ゆ。是蓋世の勇力士か。親の讐言敵を轍むる及び、許ヨリの助大刀をせし。那人の手柄ふき、モ翠塚連と轍捕るととも、還く俺们を恨む。今よりその譏定を定め、大飼犬村二勇士去躬方の精兵を従へて、躱と勝負を覗ひ更某の大田と共に那副使们を殺崩しと毛野の進

退を免へ。先鋒の敵の退を締の難義及びその折ゆる大飼も大村生も隊兵を
找め戦と接け更なると久毛野も恨む。締十分ゆく十魚を危ひと考へ。と議を
信乃の感嘆とその計議の極めて妙を亂智の回識。是より大田大川二君子の三就中
犬田生、石濱よりと好も深かり。進退の左右も大川生と商量を。又犬山が五十子
攻め翌の時宜ふ憑るべ。今這里にて定め。軍議は是まで。とよ道節小
文吾現八角有種。们を俱ふ應く。亦復餘談及びけり。余程ふ道節。有種が
伴當二名。ふ雲要時機密と具示し。汝達ハ五十子の城の頭ふ潛ゆ。縁連们が城
あり。考をよく見定め。恁の處を快走りかす。大川大田ふ報知。ね這他のるの箇様々々
ある。と余伴當们があらゆて船と浦曲ふ寄テ。高曇うち登り。五十子と投げて死す。且と
有種。准備の割籠とうち披ひ。六丈の夜飯を差し。益と薦め。舟と司馬浦へ
漕す。程現八と大角の莊介小文吾と送代。石未か存り。程のうと信乃道節ふ報

かり。わど。ちよ。みのそく。まで。みる。さる。よゆんがれひよ。そく。
矣。有懲程。有種。催促。船出。躬方の雜兵九千餘名。大平駆五六艘。
の。せんぢよえ。五。
うち乗り。千住河より來ゆり。道節。身と勞を。引々入高畠。浦曲。赴き船と歇。
ここ。さなり。きむ。ま。そよおこて。まよ。ゆみや。あらぎ。かね。よし。
这里。隊配。定る。船。身甲。腕甲。脣盾。弓箭。鎗眉。尖刀。と。執入。六犬。
去。あるく。擇食。身と。揺。准備。整す。程。夜。丑二。も。す。あ。登時。道節。有
種。ふうち對ひ。和殿。船。留り。俺黨の本意。遂て。かり。来ゆ。俟。と。有種。雙
毛。逆の約束。け。推辞。奉る。ま。ども。俱。這隊。存り。某一人。這船。遣そ
戰。ひと外。外。死。願。妻伴。ひ。が。と。口説。と。道節。推禁。も。亦。要。寔。擬勢。和殿。親
や。妻子。死。と。他人。許。も。那。定正。大敵。俺们。勝。も。負。退く。と。不
ま。船。わ。も。更。難。義。及。是。む。を。放。料。が。有。懲。找。敵。と。擊。り。ま。這
船。成。もの。功。を。か。ど。もの。義。と。あ。ひ。も。と。諫。も。義。引。ざ。け。と。有。種。も。ち。及。ば。
ス。竟。本。もの。意。従。ひ。け。リ。今。程。小。文。吾。現。八。大。角。船。方。の。雜。兵。
従。密。々。陸。登。り。高。畠。茂。林。中。聚。合。曉。候。程。又。隊。配。相。定。め。心
利。の。難。兵。亦。五。六。名。間。謀。と。く。那。縁。連。が。う。ま。そ。五。十。子。の。城。の。動。靜。漸。新。報。と。そ。
ひ。そ。う。う。こ。つ。ふ。あ。さ。う。き。ふ。う。る。そ。れ。ま。た。も。さ。ぶ。ホ。ー。ら。う。と。う。い。ど。ら。ホ。ー。じ。う。う。
竊。ふ。那。里。遣。け。リ。話。分。兩。頭。是。下。り。先。小。麻。生。鬼。四。郎。の。鄰。人。們。鬼。四。郎。只。ひ。う。
「。ま。も。」
牛。盜。児。と。趕。蒐。司。馬。の。え。赴。た。る。聞。知。り。相。資。ん。と。捧。と。捲。と。蕉。火。と。振。照。鹽。濱。
亨。廟。廢。堂。の。頭。ま。來。あ。け。リ。堂。前。の。杉。ふ。繫。ま。と。太。と。突。殺。ま。て。る。男。女。あ。鬼。四。郎。が
牛。鬼。その。樹。下。あ。わ。け。ま。が。ゆ。と。く。什。生。と。駭。謀。き。僉。立。よ。熟。視。か。死。る。男。女。の。背
身。寫。着。る。數。行。の。丈。わ。と。あ。と。て。這。男。女。媼。内。船。虫。と。喚。做。る。強。盜。夫。婦。あ。も。あ
年。來。の。積。惡。今。宵。放。免。善。惡。平。と。鬼。四。郎。と。善。惡。平。と。鬼。四。郎。と。殺。よ。の。更。の。趣。ま。向。が。分。明。き。り。ま。
い。と。驚。な。ま。く。奇。と。て。先。鬼。四。郎。と。善。惡。平。と。鬼。四。郎。と。殺。よ。の。更。の。趣。ま。向。が。分。明。き。り。ま。
灸。所。の。深。瘻。あ。け。と。又。生。う。あ。げ。り。大家。且。評。議。と。疑。ま。牛。の。角。の。血。の。深。ま。と。強
盜。夫。婦。の。這。牛。の。突。殺。ま。く。疑。ひ。く。什麼。何。人。が。捕。捕。と。恁。計。ひ。う。け。と。う。す。の。情。を。

知るより身も心も却わざをば近き村長よりと報て地方の民と共倡ふ。お詫早五十子あ
せうきふく。
城内へ訴けり。お商ふる日城外ふ更ゆひと沙汰ふ及ばず。第三日ふ至り。有司詮議。船虫
あべみ。くび。たま。ひら。とあこち。きこ。
と船内が首級を濱邊に斬り落す。辯速近い者をば人咸襲嘆をまかし。強盜夫婦を
と縄をの積西心を懲らし背へ寫ゆ。入那脚堂を閻魔王の靈験あそわらして參詣
くま。せたまく。あく。そぞ。ま。とあご。
羣集をうか。余後數度の戦ひ。堂宇頽破。及び。地藏も閻魔の木像も。某甲
てら。くら。
寺ふ遷さみて。这里あわざをうりとぞ。入鬼四郎が赤牛へ。強盜夫婦を突殺する。大功め。
の意とぞ。鬼四郎が妻と兒子ふくましく鍾愛せし者の一周年忌め。菩提の輿ふ
と。香華院主あせけり。是より七那牛ハ耕作車力の艱苦もわざぞ。歳々寺ふ奉り。
せんがね。と。
選佛場ゆて終り。是等ハ後のひきど。約や。其小寫も。休題。再説明。正月廿一日。
ああい。こ。せうき。あまめん。ようつら。かね。あや。さがみ。やうでうけ。みのぎ。あせり。
這朝五十子の城内。竜山免太夫縁連。初の姓名。相模。北條家へ密議の使節と
みゆ。おひさ。
奉り。未明うち首途を繰連の日。打扮の萌葱威の身甲を磨着の腕甲襦脣。上

衣。黒蛇皮絹の小袖。脇脱の衣。下ぞり龍表被。黄羅紗の陣羽織。純子の野袴。穿
き。こ。ふつ。テ。タ。う。と。考。み。よ。の。花。の。う。ま。さ。ゆ。う。の。る。さ。ゆ。う。
領。黄金表装の両刀。瑞脩。跨。桃花馬の太逞。雲珠鞍。置。うち来る。左右に
従ふ四個の若黨。雜兵奴隸三十餘名。前か立後か跟。鎧柳。幡長柄の金鎧。櫃杖。雨衣
を。と。次第。乱。三。隨。従。モ。次。副。使。竈門。既濟。越。杉。岑。鷲崎。猛虎。仁。田。山。晋。五。不。玉。る。
恵。俱。少。劣。筋。打。扮。セ。各。々。馬。を。拍。せ。る。這。伴。當。許。用。而。小。荷。駄。を。牽。走。長。櫃。と。昇。り。の。
ま。の。り。さ。う。ね。り。こ。
遙。後。方。ふ。従。そ。一。町。有。餘。陸。續。方。既。か。く。縁。連。们。稍。品。草。そ。う。ち。過。く。朝。日。初。て。日。升。る。比
ひ。と。ひ。ね。さ。う。け。の。み。と。も。あ。と。も。こ。ひ。い。そ。ち。ま。の。去。え。あ。こ。き。き。こ。ミ。き。の。き。の。く。
人。を。ぞ。大。阪。毛。野。胤。智。之。胤。智。這。日。の。打。扮。白。布。の。四。天。の。下。細。鎌。の。細。衣。を。被。て。重。草。の。立
舉。の。腰。盾。自。布。の。顛。紺。て。髮。を。後。振。糸。一。尺。八。寸。白。大。刀。ヒ。音。を。帶。副。て。小。鎌。を。引。提
ひ。と。ひ。ね。さ。う。け。の。み。と。も。あ。と。も。こ。ひ。い。そ。ち。ま。の。去。え。あ。こ。き。き。こ。ミ。き。の。き。の。く。
の。去。向。の。方。ふ。立。舉。り。天。地。お。御。音。よ。戸。高。房。お。を。と。竜。山。免。太。夫。本。姓。は。董。山。氏。逸。東。太。縁
つ。ら。參。と。ま。お。宣。せ。り。見。あ。ま。り。お。ま。と。さ。と。こ。き。お。あ。う。あ。ひ。も。う。お。か。く。ま。の。り。



因ふ云大村大角の名、礼儀をも第六輯へ見えて論る。然るに第七輯ふ礼度ふ作り
す。古人字訓のもとをもとて則清と憲清儀清ふ作り時致と時宗よ作り成氏を重氏ふ
作りる例もわざ深く咎る足らざりども実に暗記の失をも本輯ゆ改正と又礼儀ふ
作りう。抑第七輯上下二帙へ刊行の書肆先例ふ背く。作者の校訂を受キ。製本發
行せり。就中誤寫ヨリ又只七輯のもやも。毎輯書肆ふ發販を急ぎて校訂
夜をも日か接だるも。不見迷する誤寫衍脱。竟とひづる。冀ふ具眼の君子正一私。
又云信乃莊介道節現八小文吾。大角。毛野。遠七太吉の列傳へ既もその趣を盡す。獨大江親兵衛
之。もその義勇と創をも。由來り。至る第四輯より世の時四歳の童をも。第九輯へ大江の為ふ
立る脚色甚しき。又七烈女。濱路。沼蘭。妙真音。音更る。皆薄命。縁由及八太吉の身の患の
形牡丹花ふ似。第九輯ふ至る分解せん全書の圓圓近にあり。看官結局の旨と俟ね。

里見八犬傳第八輯卷之八下套終

○著作堂手集南總里見八犬傳第八輯下快画者筆工刷人目次
出像畫工

柳川重信

做

書五六七八上

谷金

川守

削

五附錄八下

墨

田

仙

橋

刪

第五卷

淺

田

伊

八

第八卷下

第六卷

原

木

藤

吉

開卷驚奇俠客傳第二集

第三集

物語の如く佳境未令より新奇限りを以て
本集五冊當癸巳春より賣却一いへ
後編三冊後編七冊共々全十卷

近世說美少年錄第四輯

俠客傳二集三集出版の時引はき
叢行遠勢べらむ 本輯五冊嗣出
本集五冊 共小精刊美帛製本

松浦佐用媛石魂錄

前編三冊後編七冊共々全十卷
後編近ちろ續則うを以て置く也

美濃舊衣八丈綺談

戯曲かわら書きの駒才三がみを寄妙
作をもて因果物うろも全五冊

南總里見八犬傳第九輯

本輯毛一部全璧とすべし接續
刊行近きふゆ 卷數未詳

本房刊行所 曲亭翁新著美少年錄俠客傳
并入大傳第八輯共良工擇之雕鏤等處
之自然も或は筆工或は雕ある謬れ翁の
如意事すものあひゆ 精細と加えて遺憾す
考と欲せ八犬傳第九輯も續刊近づゆる
既に上の目録も是を乞う七輯已上の動り先づ遅滞去
すとあひて伏て稟を賜願の君子美少懲て齋を
吹笛までとぞ 江戸書林 文漢堂敬白

○家傳神女湯 諸病の妙葉 一包代百銅
本傳の如くの良方あり産前産後の方不即効ゆる
○精制衣奇應丸 大色代金粉朱 中色代一色五ト
萬代小色代百倍ある神の如く
○熊膽黑丸子 金の如くおもへぬが加減するを
婦人之むの妙葉 帰り度すをえ後う物一包文士
製茶本家神田明神下同朋町東横町 滝澤氏
弘所元飯田町中坂下南側よもの向左近沢氏

○古今之類也の仙女香 一包文 黒油美玄香 一包文

四十文

四十文

江戸京橋南二丁目東側角坂 本氏

書行

大坂

同

所

河

同

町

内

屋

茂

兵衛

本所松阪町二町目

傳馬町二町目

江戸

同

河

内

屋

茂

兵衛

丁子屋平兵衛板

同

所

平

同

町

内

屋

茂

兵衛

